CASBEE®あいち

▮評価結果▮

ュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICH





Q2 サービス性能

2

Q1のスコア= 3.0



2.0

ロュサービ

Q3 室外環

(敷地内)



2.8

Q2のスコア= 3.1



各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。 ①地球温暖化への配慮 LR-3 1 地球温暖化への配慮

Q1 室内環境

2.3

2.6

LR-31 地球温暖化への配慮 ②資源の有効活用 Q-22 耐用性・信頼性、Q-23 対応性・更新性 LR-22 非再生性資源の使用量削減 ③敷地内の緑化

Q-31生物環境の保全と創出

中高木の樹冠の水平投影面積+低木・地被等の植栽面積 ×100 外構緑化指数=

敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた

屋上緑化面積+壁面緑化面積

建物緑化指数= 建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版 (仮称)トヨタカローラ中京側 豊田元町店		■使用評価マニュアル: 欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:			CASBEE-建築(新築)2016年版+あいた CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI			
スコアシート 実施設計段階	***		144.A.A. # 1	74 66 0 14	# 00 000	A	5:4 m//	
已慮項目	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物主体·共用 評価点	理物主体 評価点	重み	居・宿泊部 住居・宿	重み	<u></u>
2 建築物の環境品質					係数		係数	2
11 室内環境					0.34		-	3
1 音環境				2.3	0.15	***************************************	-	2
1.1 室内騒音レベル			XXXX	3.0	0.40	**************************************	-	1
1.2 遮音	_		XXXX	3.0	0.40	~~~~~	-	1
177 - 47 - 4 12 13	_		88888	1.0	0.70	XXXXIXXXX	-	1
2 界壁遮音性能 3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	_		- KXXXX		0.30	XXXXXXXX		ı
4 界床遮音性能(重量衝擊源)			8888			XXXXXXXXX		ı
1.3 吸音			- XXXXX	1.0	0.20	 		ı
2 温熱環境			88888	2.6	0.35	******	-	1
2.1 室温制御			XXXX	3.7	0.50	***********	-	1
1 室温			8888	3.0	0.41	XXXX	-	ı
2 外皮性能			XXXX	3.0	0.23		-	ı
3 ゾーン別制御性		パッケージ型エアコンによりエリア毎の個別空調	XXXX	5.0	0.36	*************************************	-	ı
2.2 湿度制御			8888	1.0	0.20	XXXXXXXXX	-	ı
2.3 空調方式			8888	2.0	0.30	XXXXXXXXX		_
3 光・視環境			XXXX	3.1	0.25	**********		╙
3.1 昼光利用			XXXXX	3.0	0.35	************		
1 昼光率			8888	3.0	0.45	XXXXXXXXXX	-	
2 方位別開口	_		- XXXX	XXXX	-		-	ı
3 昼光利用設備	_		00000	3.0 3.0	0.55	D0000000000000000000000000000000000000	-	ı
3.2 グレア対策	_		XXXX	3.0	0.22 1.00	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	-	ı
3.3 照度	_	作業場も目標照度800kで計画	- XXXX	4.0	0.11		-	ı
3.4 照明制御	_	作来物で自体/M/支6000X Cal 回	88888	3.0	0.11	XXXXXXXXXXX	_	ı
4 空気質環境			\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	4.0	0.25	*****		╁
4.1 発生源対策			8888	4.0	0.50	***************************************	-	╁
1 化学污染物質		F☆☆☆☆採用	20000	4.0	1.00	***************************************		ı
4.2 換気	_		XXXX	3.3	0.30	***********	-	ı
1 換気量	=		8888	3.0	0.38	888888888888888888888888888888888888888	-	ı
2 自然換気性能			- XXXX	3.0	0.25		-	ı
3 取り入れ外気への配慮		給排気口は6m以上の離隔を確保	88888	4.0	0.38	XXXXXXXXXX	-	ı
4.3 運用管理			XXXXX	5.0	0.20	************	-	ı
1 CO ₂ の監視			88888	-	-		-	ı
2 喫煙の制御		全館禁煙	XXXX	5.0	1.00	****	-	ᆫ
2 サービス性能			D0000	_	0.30		-	
1機能性			- XXXX	2.9	0.40	**************************************	-	╄
1.1 機能性・使いやすさ			000000	2.5	0.40	XXXXXXXXXX	-	L
1 広さ・収納性 2 高度情報通信設備対応	_		XXXX	1.0 3.0	0.25		-	ı
2 高度情報通信設備対応 3 バリアフリー計画	独自		88888	3.0	0.25	XXXXXXXXXXX	-	ı
1.2 心理性・快適性	44日		****		0.50 0.30	***********	-	ı
1 広さ感・景観 (天井高)	-			3.0	0.33	2000,000000000000000000000000000000000	1	1
2 リフレッシュスペース	_		XXXXX	3.0	0.33	KXXXX		
3 内装計画		インテリアパースを取入れ計画段階からコンセフトの表現を具体化	XXXX	4.0	0.33	 	-	
1.3 維持管理			8888	3.0	0.30	XXXX	-	
1 維持管理に配慮した設計			××××	3.0	0.50		-	
	_		88888	3.0	0.50	 	-	
2 維持管理用機能の確保			VVVV	2.8	0.31	*********	i -	
2 維持管理用機能の確保 2 耐用性・信頼性			(XXXXX	2.8	0.51			
			- XXX	3.0	0.48	***************************************	i -	
2.1 耐震・免震・制震・制振 1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0 3.0	0.48 0.80		-	
割用性・信頼性 2.1 耐震・免震・制震・制振 1 耐震性(建物のこわれにくさ) 2 免震・制震・制振性能				3.0 3.0 3.0	0.48 0.80 0.20		- -	
2 耐用性・信頼性 2.1 耐震・免震・制震・制振 1 耐震性(建物のこわれにぐ) 2 免震・制震・制振性能 2.2 部品・部材の耐用年数				3.0 3.0 3.0 2.9	0.48 0.80 0.20 0.33		- - -	
2 耐用性・信頼性 2.1 耐震・免震・制震・制振 1 耐震性健物のこわれにくさ) 2 免密・制震・制振性能 2.2 部品・部材の耐用年数 1 駆体材料の耐用年数				3.0 3.0 3.0 2.9 3.0	0.48 0.80 0.20 0.33 0.23		- - - -	
2 耐用性・信頼性 2.1 耐震・免震・制振				3.0 3.0 3.0 2.9 3.0 3.0	0.48 0.80 0.20 0.33 0.23 0.23		- - - -	
2 耐用性・信頼性 2.1 耐震・免震・制振 1 耐震性(建物のこわれにくさ) 2 免震・制震・制振性能 2.2 部品・部材の耐用年数 1 躯体材料の耐用年数 2 外壁仕上げ材の連絡を要間 3 主要内装仕上げ材の更新必要	間隔			3.0 3.0 3.0 2.9 3.0 3.0 3.0	0.48 0.80 0.20 0.33 0.23 0.23 0.09		- - - - - -	
2 耐用性・信頼性 2.1 耐震・免震・制振 1 耐震性建物のこわれにくさ) 2 免産・制産・制接性能 2 免産・制産・制接性能 2 免産・制産・制接性能 2 か整体材料の耐用年数 2 外整仕上げ材の補締必要間 3 主要内接仕上げ材の更新必要限 4 空間換気ダクトの更新必要	間隔	ライ・・・が領等の採用 もける逆中		3.0 3.0 3.0 2.9 3.0 3.0 3.0 3.0	0.48 0.80 0.20 0.33 0.23 0.23 0.09 0.08		- - - - - -	
2 耐用性・信頼性 2.1 耐震・免震・制震・制振	11隔 11隔 11隔	ライニング銅管の採用 Eは不採用		3.0 3.0 3.0 2.9 3.0 3.0 3.0 3.0 4.0	0.48 0.80 0.20 0.33 0.23 0.23 0.09 0.08 0.15		- - - - - - - -	
2 耐用性・信頼性	11隔 11隔 11隔	ライニング鋼管の採用 Eは不採用		3.0 3.0 3.0 2.9 3.0 3.0 3.0 4.0 2.0	0.48 0.80 0.20 0.33 0.23 0.23 0.09 0.08 0.15		- - - - - - - - -	
2 耐用性・信頼性 2.1 耐震・免震・制振・制振 1 耐震・性健物のこわれにくさ) 2 免煙・制震・制操性能 2.2 部品・部材の耐用年数 1 躯体材料の耐用年数 2 外壁仕上げ材の新용砂要間 3 主要内線仕上げ材の更新必要問 4 空調換気ダフトの更新必要問 5 空調・給排水配管の更新必要問 6 主要協備機器の更新必要問 2.4 信頼性	11隔 11隔 11隔	ライニング鋼管の採用 Eは不採用		3.0 3.0 3.0 2.9 3.0 3.0 3.0 3.0 4.0 2.0	0.48 0.80 0.20 0.33 0.23 0.23 0.09 0.08 0.15 0.23		- - - - - - - - - - - - - - - - - - -	
2 耐用性・信頼性 2.1 耐震・免震・制振	11隔 11隔 11隔	ライニング鋼管の採用 Eは不採用		3.0 3.0 3.0 2.9 3.0 3.0 3.0 3.0 4.0 2.0 2.6	0.48 0.80 0.20 0.33 0.23 0.09 0.08 0.15 0.23 0.19 0.20		-	
2 耐用性・信頼性 2.1 耐震・免震・制震・制振 1 前震・性(建物のこわれにくさ) 2 免震・制震・制振性能 2.2 部品・部材の耐用年数 1 躯体材料の耐用年数 2 外壁仕上げ材の補修必要間 3 主要内装仕上げ材の種修必要間 4 空調・発射・私配管の更新必要目 5 空調・発射・私配管の更新必要目 6 主要設備機器の更新必要問 2.4 信頼性 1 空調・換気設備 2 給排水・衛生設備	間隔 月隔 月隔 隔	ライニング鋼管の採用 Eは不採用		3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 4.0 2.0 2.6	0.48 0.80 0.20 0.33 0.23 0.09 0.08 0.15 0.23 0.19 0.20 0.20		-	
2 耐用性・信頼性 2.1 耐震・免震・制震・制振 1 計震・免震・制振 2 免震・制震・制振性能 2.2 部品・部材の耐用年数 2 外壁仕上げ材の補降必要問 3 主要内装仕上げ材の乗が必要問 4 空調換索グケルの更新必要問 5 空調・給排水配管の更新必要問 6 主要設備機器の更新必要問 2.4 信頼性 1 空調・換気設備	11隔 11隔 11隔	ライニング鋼管の採用 Eは不採用		3.0 3.0 3.0 2.9 3.0 3.0 3.0 3.0 4.0 2.0 2.6	0.48 0.80 0.20 0.33 0.23 0.09 0.08 0.15 0.23 0.19 0.20		-	

3 対応性・更新性			CXXXX	3.6	0.29	KXXXX	00000		3.6
3.1 空間のゆとり			8888	5.0	0.31	8888	88888		0.0
1 階高のゆとり			80000	5.0	0.60	XXXX	XXXXX	_	
		壁長さ比率=0.1未満	- KXXXX	5.0	0.40	XXXX	KXXXXI		
2 空間の形状・自由さ 3.2 荷重のゆとり		至文C比平一0.1不凋	XXXX	3.0	0.40	KXXXX	XXXXX	-	
			XXXX			XXX		-	
3.3 設備の更新性			XXXX	3.0	0.38	XXXX	XXXXX	-	
1 空調配管の更新性	2		- BXXXX	3.0	0.17	8888	88888	-	
2 給排水管の更新性			188888	3.0	0.17	XXXX	XXXXX	-	
3 電気配線の更新性			XXXX	3.0	0.11	XXXX	XXXXX	-	
4 通信配線の更新性			1000000	3.0	0.11	XXXX	(XXXXX	-	
5 設備機器の更新性			100000	3.0	0.22	XXXX	XXXXX	-	
6 バックアップスペースの確保			BXXXX	3.0	0.22	XXXX	XXXXX	_	
Q3 室外環境(敷地内)			1000	-	0.36		-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出	独自③		10000	1.0	0.30	0000	VOOON		1.0
				2.0	0.40	****			2.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④		- XXXX			****	₩₩	-	
3 地域性・アメニティへの配慮			0000	2.0	0.30	XXXX	00000	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自 ④		- XXXX	3.0	0.50	88888	888888	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			22222	1.0	0.50	88888	2000	-	
LR 建築物の環境負荷低減性								- 1	2.7
LR1 エネルギー				-	0.40		- 1	-	2.6
1 建物外皮の熱負荷抑制			\$25055	1.3	0.12	10000	00000	-	1.3
2 自然エネルギー利用			XXXX XXXX	3.0	0.25	XXXX	XXXXX	-	3.0
3 設備システムの高効率化			********	2.6	0.38	XXXX	*****	-	2.6
4 効率的運用			200	3.0	0.25	 XXXX		-	3.0
	—		- XXXXX			XXXX	XXXXX		3.0
集合住宅以外の評価			XXXXX	3.0	1.00	XXXX	XXXXX	-	
4.1 モニタリング	l		XXXX	3.0	0.50	XXXX	888888	-	
4.2 運用管理体制	l		XXXXX	3.0	0.50	XXXX	XXXXX	-	
集合住宅の評価			XX	XXXXX	-	XXXX	XXXXX	-	
4.1 モニタリング	l		XXXX	XXXXX	-	XXXX	(XXXXXX	-	
4.2 運用管理体制	1		XXXX	KXXXXX	-	XXXX	XXXXX	-	
LR2 資源・マテリアル					0.30	1	MAAA4	-	2.8
1 水資源保護			20000	3.4	0.15	2000	555555	-	3.4
1.1 節水		節水型便器の採用	XXXX	4.0	0.40	XXXX	XXXXX		3.4
1.1 即小 1.2 雨水利用・雑排水等の利用	ł	many case are not or other to	OCKNO	3.0	0.60	XXXX	XXXXX	- 1	
			XXXXX			88888	******	-	
1 雨水利用システム導入の有無	l		88888	3.0	0.67	8888	XXXXXX	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			XXXXX	3.0	0.33	XXXX	XXXXX	-	
2 非再生性資源の使用量削減			XXXXX	2.4	0.63	XXXX	XXXXX	-	2.4
2.1 材料使用量の削減			XXXX	2.0	0.07	XXXX	XXXXX	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					0.04				
			100000	3.0	0.24	500000	88888	-	
	· ②	_	- XXXX	3.0	0.24	****	****	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		_ _					****	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	② 独自	<u>-</u>		3.0 1.0	0.20			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 持続可能な森林から産出された木材	独自	_		3.0 1.0 2.0	0.20 0.20 0.05			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 持続可能な森林から産出された木材 2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				3.0 1.0 2.0 3.0	0.20 0.20 0.05 0.24			- - - -	2.6
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 持続可能な森林から産出された木材 2.6 部材の再利用可能性向上への取組み 3 汚染物質含有材料の使用回避	独自			3.0 1.0 2.0 3.0 3.6	0.20 0.20 0.05 0.24 0.22			-	3.6
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 持続可能な森林から産出された木材 2.6 部材の再利用可能性向上への取組み 3 汚染物質含有材料の使用固避 3.1 有害物質を含まない材料の使用	独自			3.0 1.0 2.0 3.0 3.6 3.0	0.20 0.20 0.05 0.24 0.22			- - - - -	3.6
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 持続可能な森林から産出された木材 2.6 部材の再利用可能性向上への取組み 3 汚染物質含有材料の使用回避 3.1 有害物質を含まない材料の使用 3.2 フロン・ハロンの回避	独自			3.0 1.0 2.0 3.0 3.6	0.20 0.20 0.05 0.24 0.22			-	3.6
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 持続可能な森林から産出された木材 2.6 部材の再利用可能性向上への取組み 3 汚染物質含有材料の使用回避 3.1 有害物質を含まない材料の使用 3.2 フロン・ハロンの回避 1 清火剤	独自	_		3.0 1.0 2.0 3.0 3.6 3.0 4.0	0.20 0.20 0.05 0.24 0.22 0.32 0.68			-	3.6
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 持続可能な森林から産出された木材 2.6 部材の再利用可能性向上への取組み 3 汚験物質含有材料の使用回避 3.1 有害物質を含まない材料の使用 3.2 フロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発治剤(断熱材等)	独自	 発泡剤を用いた断熱材を使用していない		3.0 1.0 2.0 3.0 3.6 3.0 4.0	0.20 0.20 0.05 0.24 0.22 0.32 0.68 - 0.50			- - - - - - -	3.6
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 持続可能な森林から産出された木材 2.6 部材の再利用可能性向上への取組み 3 汚染物質含有材料の使用回避 3.1 有害物質を含まない材料の使用 3.2 フロン・ハロンの回避 1 清火剤	独自	- - - 発泡剤を用いた断熱材を使用していない		3.0 1.0 2.0 3.0 3.6 3.0 4.0	0.20 0.20 0.05 0.24 0.22 0.32 0.68			-	3.6
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 持続可能な森林から産出された木材 2.6 部材の再利用可能性向上への取組み 3 汚験物質含有材料の使用回避 3.1 有害物質を含まない材料の使用 3.2 フロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発治剤(断熱材等)	独自			3.0 1.0 2.0 3.0 3.6 3.0 4.0	0.20 0.20 0.05 0.24 0.22 0.32 0.68 - 0.50				3.6
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 持続可能な森林から産出された木材 2.6 部材の再利用可能性向上への取組み 3.7 完全物質含素材料の使用回避 3.1 有害物質を含まない材料の使用 3.2 フロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒 LR3 敷地外環境	独自			3.0 1.0 2.0 3.0 3.6 3.0 4.0 - 5.0 3.0	0.20 0.20 0.05 0.24 0.22 0.32 0.68 - 0.50 0.50		-	-	2.8
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 持続可能な森林から産出された木材 2.6 部材の再利用可能性向止への取組み 3 汚蛛物質含書ない材料の使用回避 3.1 有害物質を含まない材料の使用 3.2 フロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発治剤(断熱材等) 3 冷媒 LR3 敷地外環境 1 地球温暖化への配慮	独自			3.0 1.0 2.0 3.0 3.6 3.0 4.0 - 5.0 3.0	0.20 0.20 0.05 0.24 0.22 0.32 0.68 - 0.50 0.50 0.30				2.8 3.3
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 持続可能な森林から産出された木材 2.6 部材の再利用可能性向上への取組み 3 汚染物質含剤材料の使用回避 3.1 有害物質を含まない材料の使用 3.2 フロン・ハロンの回避 1	独自			3.0 1.0 2.0 3.0 3.6 3.0 4.0 - 5.0 3.0	0.20 0.20 0.05 0.24 0.22 0.32 0.68 - 0.50 0.50 0.33		-	-	2.8
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.5 持続可能な森林から産出された木材 2.6 部材の再利用可能性向上への取組み 3.1 有害物質を含まない材料の使用 3.2 フロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒 1 地球温暖化への配慮 2 地域環境への配慮 2.1 大気汚染防止	独自			3.0 1.0 2.0 3.0 3.6 3.0 4.0 - 5.0 3.0 - 3.3 2.3	0.20 0.20 0.05 0.24 0.22 0.32 0.68 - 0.50 0.50 0.33 0.33			-	2.8
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.6 部材の再利用可能性向上への取組み 3 汚験物質含有材料の使用回避 3.1 有害物質を含まない材料の使用 3.2 フロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒 LR3 敷地外環境 1 地球温暖化への配慮 2 地域環境への配慮 2.1 大気汚染防止 2.2 温熱環境悪化の改善	独自		100 mm	3.0 1.0 2.0 3.0 3.6 3.0 4.0 - 5.0 3.3 2.3 3.0 2.0	0.20 0.20 0.05 0.24 0.22 0.32 0.68 - 0.50 0.50 0.30 0.33 0.25 0.50		-	-	2.8
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 持続可能な森林から産出された木材 2.6 部材の再利用可能性向上への取組み 3.7 完全物質含素ない材料の使用 3.2 フロン・ハロンの回避 1 海火剤 2 海治剤(断熱材等) 3 冷媒 LR3 敷地外環境 LR3 敷地外環境 2.1 大気汚染防止 2.2 温熱環境率の配慮 2.1 大気汚染防止 2.2 温熱環境悪化の改善 2.3 地域インフラへの負荷抑制	独自		88	3.0 1.0 2.0 3.0 3.6 3.0 4.0 - 5.0 3.0 - 3.3 2.3 3.0 2.0 2.5	0.20 0.20 0.05 0.24 0.22 0.32 0.68 - 0.50 0.50 0.33 0.33 0.25 0.50 0.25			-	2.8 3.3
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 持続可能な森林から産出された木材 2.6 部材の再利用可能性向上への取組み 3 汚染物質含有材料の使用回避 3.2 フロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒 LR3 敷地が環境 1 地球温暖化への配慮 2.1 大気汚染防止 2.2 温熱環境悪化の改善 2.3 地域インラーへの負荷抑制 1 雨水排水負荷低減	独自		\$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$	3.0 1.0 2.0 3.0 3.6 3.0 4.0 - 5.0 3.0 - 3.3 2.3 3.0 2.0 2.5	0.20 0.20 0.05 0.24 0.22 0.32 0.68 - 0.50 0.50 0.33 0.33 0.25 0.50 0.25			-	2.8
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.6 部材の再利用可能性向上への取組み 3 汚象物質含有材料の使用回避 3.1 有害物質を含まない材料の使用 3.2 プロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発治剤(断熱材等) 3 冷媒 1 地球温暖化への配慮 2 地域環境への配慮 2 2 1 大気汚染防止 2 2 温熱環境悪化の改善 2.3 地域インフラへの負荷抑制 1 両水排水負荷低減 2 汚水処理負荷抑制 1	独自		\$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$ \$	3.0 1.0 2.0 3.0 3.6 3.0 4.0 - 5.0 3.0 - 3.3 2.3 3.0 2.0 2.5 3.0	0.20 0.20 0.05 0.24 0.32 0.68 - 0.50 0.50 0.33 0.33 0.25 0.25 0.25		-	-	2.8
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 持続可能な森林から産出された木材 2.6 部材の再利用可能性向上への取組み 3.7 完全物質含素ない材料の使用 3.2 フロン・ハロンの回避 1	独自			3.0 1.0 2.0 3.0 3.6 3.0 4.0 - 5.0 3.0 - 3.3 2.3 3.0 2.0 2.0 3.0	0.20 0.20 0.05 0.24 0.22 0.32 0.68 - 0.50 0.50 0.33 0.33 0.25 0.25 0.25 0.25			-	2.8
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.6 部材の再利用可能性向上への取組み 3 汚象物質含有材料の使用回避 3.1 有害物質を含まない材料の使用 3.2 プロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発治剤(断熱材等) 3 冷媒 1 地球温暖化への配慮 2 地域環境への配慮 2 2 1 大気汚染防止 2 2 温熱環境悪化の改善 2.3 地域インフラへの負荷抑制 1 両水排水負荷低減 2 汚水処理負荷抑制 1	独自			3.0 1.0 2.0 3.0 3.6 3.0 4.0 - 5.0 3.0 - 3.3 2.3 3.0 2.0 2.5 3.0	0.20 0.20 0.05 0.24 0.32 0.68 - 0.50 0.50 0.33 0.33 0.25 0.25 0.25			-	2.8
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 持続可能な森林から産出された木材 2.6 部材の再利用可能性向上への取組み 3.7 完全物質含素ない材料の使用 3.2 フロン・ハロンの回避 1	独自			3.0 1.0 2.0 3.0 3.6 3.0 4.0 - 5.0 3.0 - 3.3 2.3 3.0 2.0 2.0 3.0	0.20 0.20 0.05 0.24 0.22 0.32 0.68 - 0.50 0.50 0.33 0.33 0.25 0.25 0.25 0.25			-	2.8
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.6 部材の再利用可能性向上への取組み 3 汚蛛物質含有材料の使用回避 3.1 有害物質を含まない材料の使用 3.2 プロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒 1 地球温暖化への配慮 2.1 大気汚染防止 2.2 温熱環境悪化の改善 2.3 地域インフラへの負荷抑制 1 雨水排水負荷配減 2 汚水処理負荷抑制 1	独自			3.0 1.0 2.0 3.6 3.0 4.0 - 5.0 3.0 3.3 2.3 3.0 2.0 2.5 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	0.20 0.20 0.05 0.24 0.22 0.68 - 0.50 0.50 0.33 0.33 0.25 0.25 0.25 0.25			-	2.8 3.3 2.3
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 持続可能な森林から産出された木材 2.6 部材の再利用可能性向上への取組み 3.7 英軸負責者材料の使用回避 3.1 有書物質を含まない材料の使用 3.2 プロン・ハロンの回避 1 月火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒 1 地球選連化への配慮 2.1 大気汚染防止 2.2 温熱環境悪化の改善 2.1 大気汚染防止 2.2 温熱環境悪化の改善 2.3 地域インフラへの負荷抑制 1 雨水排水負荷促減 2 汚水処理負荷抑制 3 交通負荷抑制 4 廃棄物処理負荷抑制 3 交通負荷抑制 3 双環境への配慮 3.1 脳音・振動・現臭の防止	独自 独自 (1)			3.0 1.0 2.0 3.6 3.0 4.0 - 5.0 3.0 - 3.3 2.3 3.0 2.0 2.5 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	0.20 0.20 0.05 0.24 0.22 0.32 0.68 - 0.50 0.30 0.33 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.33			-	2.8 3.3 2.3
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.6 部材の再列用可能性向上への取組み 3.1 有書物質を含まない材料の使用 3.2 フロン・ハロンの回避 1 海火剤 2 発治剤(断熱材等) 3 冷線 2 地域通過化への配慮 1 地域通過化への配慮 2 地域環境への配慮 2 地域では、	独自独自			3.0 1.0 2.0 3.0 3.6 3.0 4.0 - 5.0 3.3 2.3 3.0 2.5 3.0 3.0 2.5 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	0.20 0.20 0.05 0.24 0.22 0.32 0.68 - 0.50 0.50 0.33 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.30			-	2.8 3.3 2.3
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.6 部材の再利用可能性向上への取組み 3 汚蛛物質含素材から産出された木材 2.6 部材の再利用可能性向上への取組み 1 清火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒 1 地球温暖化への配慮 2 地域環境への配慮 2.1 大気汚染防止 2.2 温熱環境悪化の改善 2.3 地域インフラへの負荷抑制 1 雨水排水負荷抑制 1 雨水排水負荷抑制 2 汚水処理負荷抑制 2 原物処理負荷抑制 3 交通負荷抑制 3 反通負荷抑制 3 原辺環境への配慮 3.1 騒音・振動・悪臭の防止 1 騒音 1 騒音 1 極音 2 振動	独自 独自 (1)		200 200 200 200 200 200 200 200 200 200	3.0 1.0 2.0 3.6 3.0 4.0 - 5.0 3.0 - 3.3 2.3 3.0 2.0 2.5 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	0.20 0.20 0.05 0.24 0.22 0.32 0.68 - 0.50 0.30 0.33 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.33			-	2.8 3.3 2.3
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 持続可能な森林から産出された木材 2.6 部材の再利用可能性向上への取組み 3.1 有書物質を含まれい材料の使用 3.2 プロン・ハロンの回避 1 月火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒 1 地球選連化への配慮 2.1 大気汚染防止 2.2 温熱環境圏にの改善 2.2 温熱環境圏にの改善 2.3 地域インフラへの負荷抑制 1 雨水排水負荷低減 2 汚水処理負荷抑制 3 交通負荷抑制 4 廃棄物処理負荷抑制 4 廃棄物処理負荷抑制 3 万速の配慮 3 1 1 1 1 1 1 1 1 1	独自独自		200 200 200 200 200 200 200 200 200 200	3.0 1.0 2.0 3.0 3.6 3.0 4.0 - 5.0 3.0 - 3.3 2.3 3.0 2.0 2.5 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	0.20 0.20 0.05 0.24 0.22 0.32 0.50 0.50 0.33 0.33 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25			-	2.8 3.3 2.3
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.6 部材の再利用可能性向止への取組み 3.1 有書物質を含まない材料の使用 3.2 フロン・ハロンの回避 1 海火剤 1 海火剤 1 海火剤 1 海水滑域 1 地球温暖化への配慮 2.1 大気汚染防止 2.2 温熱環境への配慮 2.1 大気汚染防止 2.2 温熱環境・の配慮 2.1 大気汚染防止 2.2 温熱環境・の配慮 2.1 大気汚染防止 2.3 地域インフラへの負荷抑制 1 雨水排水負荷低減 2 汚水処理負荷抑制 3 東瀬野・悪臭の防止 1 騒音 2 振動 3 悪臭 3.2 風書、砂塵、日照阻害の抑制 3 3 悪臭 3.2 風書、砂塵、日照阻害の抑制	独自独自		1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	3.0 1.0 2.0 3.0 3.6 3.0 4.0 - 5.0 3.3 2.3 3.0 2.5 3.0 3.0 2.5 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	0.20 0.20 0.05 0.24 0.22 0.32 0.68 - 0.50 0.50 0.33 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.30			-	2.8 3.3 2.3
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.6 部材の再利用可能性向上への取組み 3 汚蛛物質含素材から産出された木材 2.6 部材の再利用可能性向上への取組み 1 清火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒 1 地球温暖化への配慮 2 地域環境への配慮 2.1 大気汚染助止 2.2 温熱環境悪化の改善 2.3 地域インフラへの負荷抑制 1 雨水排水負荷抑制 2 汚水処理負荷抑制 1 雨水排水負荷抑制 3 交通負荷抑制 3 交通負荷抑制 3 交通負荷抑制 1 職害・振動・悪臭の防止 1 騒音 1 騒音 2 振動・悪臭の防止 1 駆音 3 悪臭 3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制 1 風害の抑制 1 風害の抑制 1 駆音・服身 3 悪臭 3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制 1 風害の抑制 1 加速 1	独自独自		38 38 38 38 38 38 38 38 38	3.0 1.0 2.0 3.0 3.6 3.0 5.0 5.0 2.0 2.3 3.0 2.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3	0.20 0.20 0.05 0.24 0.22 0.32 0.50 0.50 0.33 0.33 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25			-	2.8 3.3 2.3
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.6 部材の再利用可能性向止への取組み 3.1 有書物質を含まない材料の使用 3.2 フロン・ハロンの回避 1 海火剤 1 海火剤 1 海火剤 1 海水滑域 1 地球温暖化への配慮 2.1 大気汚染防止 2.2 温熱環境への配慮 2.1 大気汚染防止 2.2 温熱環境・の配慮 2.1 大気汚染防止 2.2 温熱環境・の配慮 2.1 大気汚染防止 2.3 地域インフラへの負荷抑制 1 雨水排水負荷低減 2 汚水処理負荷抑制 3 東瀬野・悪臭の防止 1 騒音 2 振動 3 悪臭 3.2 風書、砂塵、日照阻害の抑制 3 3 悪臭 3.2 風書、砂塵、日照阻害の抑制	独自独自			3.0 1.0 2.0 3.0 3.6 3.0 5.0 5.0 2.0 2.3 3.0 2.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3	0.20 0.20 0.05 0.24 0.22 0.32 0.50 0.50 0.33 0.33 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25			-	2.8 3.3 2.3
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.6 部材の再利用可能性向上への取組み 3 汚蛛物質含素材から産出された木材 2.6 部材の再利用可能性向上への取組み 1 清火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒 1 地球温暖化への配慮 2 地域環境への配慮 2.1 大気汚染助止 2.2 温熱環境悪化の改善 2.3 地域インフラへの負荷抑制 1 雨水排水負荷抑制 2 汚水処理負荷抑制 1 雨水排水負荷抑制 3 交通負荷抑制 3 交通負荷抑制 3 交通負荷抑制 1 職害・振動・悪臭の防止 1 騒音 1 騒音 2 振動・悪臭の防止 1 駆音 3 悪臭 3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制 1 風害の抑制 1 風害の抑制 1 駆音・服身 3 悪臭 3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制 1 風害の抑制 1 加速 1	独自独自		200 200 200 200 200 200 200 200 200 200	3.0 1.0 2.0 3.0 3.6 3.0 4.0 - 5.0 3.0 - 3.3 2.3 3.0 2.0 2.5 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	0.20 0.20 0.05 0.24 0.22 0.32 0.50 0.50 0.33 0.33 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25			-	2.8 3.3 2.3
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 持続可能な森林から産出された木材 2.6 部材の再利用可能性向上への取組み 3.1 有害物質を含まない材料の使用 3.2 プロン・ハロンの回避 1 月火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒 2 2 2 2 2 2 2 2 2	独自独自		200 200 200 200 200 200 200 200 200 200	3.0 1.0 2.0 3.0 3.6 4.0 - 5.0 3.0 - 3.3 2.3 3.0 2.3 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3	0.20 0.20 0.05 0.50 0.50 0.50 0.33 0.33 0.35 0.25			-	2.8 3.3 2.3
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.6 部材の再利用可能性向上への取組み 3 汚象物質含有材料の使用回避 3.1 有書物質を含まない材料の使用 3.2 フロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発治剤(断熱材等) 3 冷媒 2 免治剤(断熱材等) 3 冷媒 2 地域環境への配慮 2.1 表気汚染防止 2.2 温熱環境悪化の改善 2.1 表気汚染防止 2.2 温熱環境悪化の改善 2.3 地域インフラへの負荷抑制 1 雨水排水負荷低減 2 汚水処理負荷抑制 3 交通負荷抑制 3 交通負荷抑制 3 交通負荷抑制 3 及事が思臭の防止 1 服書 接着 接着 服装 表教の理負荷抑制 3 展書 表数・思臭の防止 1 服書 日間 日間 日間 日間 日間 日間 日間 日	独自独自			3.0 1.0 2.0 3.0 3.6 4.0 - - 5.0 3.0 2.3 3.3 2.3 3.0 2.5 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	0.20 0.20 0.24 0.22 0.32 0.50 0.50 0.50 0.25			-	2.8 3.3 2.3
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.6 部材の再利用可能性向上への取組み 3 汚象物質含素材から産出された木材 2.6 部材の再利用可能性向上への取組み 1 清火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷鍵 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷鍵 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷鍵 2 地域環境への配慮 2 地域環境への配慮 2 温熱環境悪化の改善 2.1 大気汚染防止 2.2 温熱環境悪化の改善 2.3 地域インフラへの負荷抑制 1 雨水排水負荷抑制 1 雨水排水負荷抑制 4 廃棄物処理負荷抑制 3 及通負荷抑制 3 及通負荷抑制 3 聚音・振動・悪臭の防止 1 服音・振動・悪臭の防止 1 服音・振動・悪臭の防止 1 服音・影動・悪臭の防止 1 服音・影動・悪臭の防止 1 服音・影動・悪臭の防止 1 服音・砂塵の抑制 2 砂塵の抑制 3 日照阻害の抑制 3 3 光害の抑制 3 3 3 光害の抑制 3 3 3 光害の抑制 3 3 3 光害の抑制 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	独自独自		200 200 200 200 200 200 200 200 200 200	3.0 1.0 2.0 3.0 3.0 4.0 - 3.0 3.0 - 3.0 2.3 3.0 2.0 2.5 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	0.20 0.20 0.05 0.24 0.22 0.50 0.50 0.33 0.33 0.33 0.25			-	2.8 3.3 2.3

■使用評価マニュアル<mark>CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引</mark>き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項	重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア	
1	地球温暖化	対策			3. 3	
	LR3-1	地球温暖化への配慮	3.3	0.10		
2	資源の有効	活用			2. 7	
	Q2-2	耐震性·信頼性	2.8	0.09		
	Q2-3	対応性·更新性	3.6	0.09		
	LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.19		
3	敷地内の緑	化			1.0	
	Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.11	外構緑化:0%/建物緑化:0%	
4	地域材の活用		(評価ポイント)		1.0	
	Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし	
	Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化 重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

	計画上の配慮事項
総合	注)設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 高温排熱機器を使用しないことで敷地内の温熱環境や大気汚染防止を図るとともに、高効率の設備機器(LED照明器具・COPの高い空調機器)や節水型の衛生器具の採用により省エネルギーに努めました。また、敷地周辺の交通負荷を抑制するために十分な駐車スペースを確保することに努めました。
Q1 室内環境	注)「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 壁・天井の仕上げ材にはF☆☆☆☆の建材を使用することで有害物質の発 散を抑えるよう配慮しました。パッケージ型の空調機を採用することでエリア ごとの個別の空調が可能な計画としました。
Q2 サービス性能	注)「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 計画当初よりインテリアパースによる内装計画の事前検証を十分に行い、建 物のコンセプトを反映するよう努めました。内部の仕上については、維持管理 のしやすいものを採用しています。店内ショールームはバリアフリー仕様とし 出入口の幅も大きくとることにより来店客の移動をスムーズに行える計画とし ました。
Q3 室外環境(敷地内)	注)「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 建物用途への要求から地域の生物環境の保全や創出に関しての配慮は計画に生かせない部分があります。特に外部の植栽等緑の量の確保については、必要駐車場や配置計画によりやむなく限定されています。 一方、建物形状を生かして室外機の設置場所は視覚的にも騒音・排熱の面からも影響の少ない位置としました。
LR1 エネルギー	注)「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 高効率の設備機器を採用しています。特に事務所スペースにはLED照明器 具を適切に配置しました。空調機器もCOPの高い機器を採用し省エネルギー に努めています。
LR2 資源・マテリアル	注)「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 節水型の衛生器具を採用しました。
LR3 敷地外環境	注)「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 整備作業エリアを道路側より見えにくい位置に配置し、周辺環境との調和を 図りました。可能な限り低層化に努めまた、外壁を傾斜させる形状とすること で圧迫感を緩和し周囲に馴染むよう配慮しています。
その他	注)上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。